

＜音楽科における活用のポイント＞

- 児童の感覚を十分に働かせたり、思考を活性化したり、工夫を促進したりすることができるよう、音楽科の学習の特質に合わせて活用する。
- 授業のねらいに応じて、端末の多彩な機能の中から厳選して用いる。
- 実際に自ら音を出したり、直に音楽を聴いたりする体験も大切にし、端末の活用場面を精選する。
- 端末を活用した学習活動の経験を蓄積していく中で、自分たちの演奏のよさや課題を見いだせるようにしたり、必要に応じて自ら端末を活用できるようにしたりするなど、主体的に学習に取り組むことができるよう指導を工夫する。

事例1 第4学年 音楽づくり 題材名：日本の音階で旋律をつくろう

〔思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：旋律のリズム、日本の音階〕

- ①日本の音階でつくられた我が国の音楽を聴き、旋律や音階などの特徴に気付く。
- ②プログラミングソフトを用いて、旋律をつくる。
  - ・音符が表示されているカードを並べて、リズムをつくる。
  - ・つくったリズムに合わせて「ミソラドレ」の五音音階から音を選んで試しながら、即興的に音を組み合わせることで旋律をつくる。
- ③友達のつくった旋律とつなげてリコーダーや鍵盤ハーモニカで演奏して、つくった音楽を聴き合う。

使う機能：プログラミングソフトのプログラム

効果的ポイント

- ・つくったリズムや旋律を、音で聴いて確かめることができる。
- ・視覚と聴覚から音の組合せの特徴を捉え、自らの表現に生かすことができる。

事例2 第4学年 歌唱・器楽 題材名：曲のとくちょうをとらえて表現しよう

〔思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：旋律、フレーズ、反復、変化〕

（『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』 事例1）

- ①「とんび」の歌詞の表す様子や旋律の反復など曲の特徴を捉える。
  - ・歌詞の表す様子や雰囲気を感じ取り、歌詞唱する。
- ②曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付き、それらを生かして表現を工夫する。
  - ・歌いながら、旋律の動きに合わせて手を動かす。
  - ・反復や変化で気付いたことをワークシートに書く。
  - ・歌唱表現を録音し、録音したものを聴いて確かめる。
- ③「エーデルワイス」の特徴を捉えて、リコーダーで旋律を演奏する。(★)
  - ・自動演奏の機能を使って、楽譜を見ながら階名唱をする。（演奏されている音の動きを見ながら、リズムを理解したり、3拍子の拍のまとまりを捉えたりする）
  - ・運指や音色に気を付けて、リコーダーを演奏する。
- ④曲想の変化を捉えて、リコーダーの表現を工夫する。
  - ・「とんび」の学習を振り返りながら、「エーデルワイス」の曲の特徴への気付きを深める。
  - ・旋律の動きにふさわしい息の強さやタンギングになっているか、録音を聴いて確かめる。
- ⑤グループごとに、表現を工夫した「エーデルワイス」の演奏を発表する。

使う機能：

- ・録音・録画機能
- ・自動演奏ソフト（シーケンサー）等の演奏機能

効果的ポイント

- ・自分たちの演奏を客観的に捉え、表現の仕方を試行錯誤できる。
- ・自動演奏機能のマイナスイオン機能を利用することで、伴奏のみ再生し、伴奏に合わせて演奏する等個別の学習もできる。